

平成20年度大学院講義 新国際基盤生命学特論 2  
グローバルCOE 「生体シグナルを基盤とする統合生命学」

2008年10月27日(月)

場所：理学部2号館4F講堂

Riccardo Dalla-Favera 博士

Institute for Cancer Genetics, Columbia University, USA

講義

Molecular genetics of B cell lymphoma:  
from genes to cellular networks

15:00 – 16:30: Lecture #1

17:00 – 18:30: Lecture #2 (希望する学生との討論)

Dalla-Favera博士は、現在米国コロンビア大学教授で、癌ゲノム研究センター長を長年勤めています。癌遺伝子研究が勃興する初期の頃にc-myc遺伝子がバーキットリンパ腫において活性化されていることを見出して以来、もっぱらリンパ腫を中心とする悪性腫瘍に関わるゲノム遺伝子について先端的研究を進めています。最近では特に転写因子BCL6やAID (activation-induced cytidine deaminase) の機能解析から、B細胞免疫学とB細胞リンパ腫に関して、Natureならびにその姉妹紙に成果を発表し続けています。

- Germinal centres: role in B-cell physiology and malignancy (Review). *Nat Rev Immunol* 8:22-33, 2008
- AID is required for germinal center-derived lymphomagenesis. *Nat Genet* 40:108-12, 2008
- Non-transcriptional control of DNA replication by c-Myc. *Nature* 448:445-51, 2007
- Transcription factor IRF4 controls plasma cell differentiation and class-switch recombination. *Nat Immunol* 7:773-82, 2006
- The BCL6 proto-oncogene suppresses p53 expression in germinal-centre B cells. *Nature* 432:635-9, 2004
- Translocation and rearrangements of the c-myc oncogene locus in human undifferentiated B-cell lymphomas. *Science* 219:963-7, 1983

- ・履修届は各研究科を通して行ってください。
- ・成績評価は出席とレポートによって行います。
- ・レポートについて： 3名の講師のうち2名の講義内容をA4レポート用紙1枚程度に要約する。講義終了後2週間以内(11月7日まで)に理学系研究科生物科学専攻事務室(理学部2号館1F154号室、担当山崎さゆり、内線24018)に提出。または、メールで以下の宛先へ。メールの場合は、題名「新国際基盤生命学特論2」とする。受領をかならず返信メールでお知らせします。返信がなければ再度確認のこと。

柳澤 春明<gcoe\_lec@biol.s.u-tokyo.ac.jp>

生物科学専攻分子生理学研究室(内線24427)

問合せ先： 理学系研究科・生物科学専攻・武田(内線24431)